

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100509		
法人名	有限会社 ヒューム		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地	佐賀市金立町大字金立1844-3		
自己評価作成日	平成21年9月30日	評価結果市町村受理日	平成21年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gojuhou-saga.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成21年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明日葉は入居者の方々が、毎日をホームでダラダラ過ごすのではなく、外出支援を主に行い日常のメリハリを持って生活する事で、緊張感を常にもち認知症状の進行を抑制するように、また、職員と共に毎日を楽しく有意義に過ごされるように援助しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐賀市金立の閑静な農村地域に位置し、広い庭園を有する民家改造型のホームである。「みんな(入居者、地域、家族、ホーム)が一体となって自立を目指す」という関係性を重視した理念が立てられ、みんなで共有されている。地域との交流が緊密で、地域行事、ホーム行事への参加をお互いに回覧板で呼びかけ合って交流を深めている。近隣の人たちからの旬の畑作物の差入れや立ち寄りも多い。また、入居者の入居前の馴染みの関係を大切に、出身地域のお祭やおくちに積極的に出かけて行き友人や知人と旧交を温め合える外出支援も行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意識づけを行う為に年1回理念を職員一人一人に手渡しポケット等に入れている。	みんな(入居者、地域、家族、ホーム)が一体となって助け合い、自立を目指すという関係性を重視した独自の理念を立てられている。管理者と職員はその理念を共有し、その具現化を意識した取り組みがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域が行っている祭りや行事への参加を行ったり、ホームで行う年1回の夏祭りへの招待を行う事で利用者の方達の顔を覚えてもらい散歩の時の声掛け等も行っている。	地域の自治会に加入し、地域行事、ホーム行事への参加を回覧板で相互に呼びかけ、入居者と地域の人々との交流が頻繁に行われている。近隣からの旬の畑作物の差入れや立ち寄りも日常的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への参加を呼びかけ、地域の公民館を利用し年1回行っている介護者教室等を通じて認知症への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月行った行事の報告や、地域の方の意見を聞く場所として和やかな雰囲気の中で面々が発言しやすいように、職員への報告も毎回行っている。	運営推進会議では、入居者やサービスの提供状況や評価への取り組み等の報告や話し合いが行われている。地域代表からの災害時の助言など、各々の立場から意見が出され、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方との連絡はできるだけ行ない色々なサービス等の情報を得ている。	市担当者に入居者の暮らしぶりやニーズを折に触れ伝えて情報の共有に努めており、公共施設利用料の軽減を図ってもらうなど協力関係も深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はもちろんの事、日中は全室開放しており、その他の面でも拘束となる行為はしない、又研修等には参加している。	管理者及び職員は身体拘束の弊害を十分に理解し、入居者一人ひとりの外出のくせや傾向を把握して見守りによる方法を徹底させている。近隣の人たちによる見守り、声かけなどの協力体制も築かれており、拘束をしないケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待による研修等の参加、又家族の面会が頻回にあり虐待防止に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回ある権利擁護の研修会への参加はもちろんの事だが、職員全員が周知するように報告も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族の方の理解が得られるように行い、疑問が残らないように面会の折等できるだけ話しかけて理解を得ている。又、家族からの電話も24時間受けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員、家族、利用者の方達が面と向かって言いづらい事は、意見箱に入れてもらうようにしており、家族との繋がりをできるだけ多く取るようにしている。	家族訪問の際の問いかけ、家族会と推進会議を同日開催にして外部者との接点を設けるなどホームにも外部者へも意見や要望が気軽に表せるよう工夫されている。出された意見や要望は運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事で意見がある場合は、1ヶ月1回のミーティングの折に出してもらい職員全員と話し合い決定する。	管理者は、運営に関する職員の意見や提案が得られるようミーティングなどの機会を設けて問いかけをし、職員からも積極的な意見や提案が出されおり、それを運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等は、昇給の折に行い職員各自が行いたい事をできるだけ実施するように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は職員が交代で受けて行くように話し合いで決定しており、研修の内容により職員間で決定するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの施設訪問や利用者と共に参加したり、佐賀支部グループホーム研修会に参加し職員の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、利用者の要望を聞く事で不安に思っている事等を話し合ったり、できる要望であれば早いうちに実施したり、安心できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いは常に行い、サービスの内容も要望をできるだけ取り入れ不安がないように、話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望があれば他のサービスも受けるように援助し、できる範囲で行なっている。「例えば、医療デイケア」等も事業所と話し合った上でやっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方達が行きたい場所のできる範囲で行き、昔の話を聞いたり散歩等の折に、本人がやりたい事等を聞き一緒に行くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お盆、お正月、家族会等をふまえ、家族と本人の絆が切れないように工夫し、家族の面会等も頻回に行ってもらうように話しかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がなじみの場所は、できるだけ行き馴染みの人と出会うような場所に行くようにしている。	入居者の馴染みの関係を把握し、出身地域のお祭やおくちに参加して友人や知人と旧交を温められるよう支援している。また、なじみの関係を持たない入居者には新しい関係づくりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの方達が居間で過ごされ、身体的に低下された方には職員ができるだけ関わりをもつようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も面会に行ったり、家族からの相談があれば応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望はできるだけ行うようにしており、できない部分は家族も交えて話し合いで決定している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向についての把握に努めている。言葉の不自由な入居者にはゆっくり話しかけて表情やしぐさによって確認し、入居者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初に本人が生活されてきた暮らし方やサービスを聞き暮らしの把握を行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員と一緒に勤務体制で勤務を行っており、休みの折には職員からの報告が入るようにしている。利用者の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には話し合いや文書で計画の希望を聞き、職員全員が把握するようにミーティングの折等に話し合い、介護計画に反映している。	入居者や家族からは入居時及び日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、それを計画に反映させている。また、職員全員でアセスメントを含め意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子が分かるように、個別記録に残し情報の共有ができるように、連絡ノート等を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対して、家族、本人との話し合いをこまめに行い、本人が納得できるように、又本人が受けたいサービスができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の買い物等、店の方との顔見知りとなり店内での行動にも協力を得られるようになったり、一人で外にでられた時等も近隣の方達の支援で帰荘できたり地域の見守り支援等、安心して生活されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、往診を受けている方が8名、1名の方は以前から利用されていた病院を受診されているが、本人が希望される時は、往診医より紹介状を頂き受診できるようにしている。	入居者や家族の希望によりかかりつけ医と訪問診療にきてもらうケースとがある。看護師が医療機関との関係を密にして受診に関する情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	3人の看護師の勤務により日常から情報の伝達を行い、休みの職員にも周知できるように「看護ノート」を作成し全員が情報を得て、利用者の方の適切な看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の折には家族と共に受診を行い、病状の把握を行う為に、病院への面会を必ず行ったり、主治医からの報告を受け早期退院を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、又は終末期を迎えた場合においての家族、主治医、管理者との話し合いを行った上で職員への報告を行い、職員全員、家族等と話し合い計画書を作成し本人が最期まで安心して暮らせるように支援を行っている。	重度化及び終末期の支援や対応についてはそれぞれに指針が作成され、早い段階から話し合いがもたれている。また状況の変化に応じて話し合いを行いながら随時意志確認を行うこととされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した場合の連絡網を作成すると共に、事故や応急処置の仕方等、勉強会を設け訓練を行っている。又公の講習会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、風水害、地震等の訓練を年2回行い、避難場所の確認、地域の協力を自治会長等にもお願いしている。火災訓練の折には近隣の応援をお願いし、通報器により直接連絡が行くようにしている。	防災訓練、避難訓練は昼夜に対応できるよう地域住民参加のもとに実施されている。地域への緊急通報体制も確立している。非常用の食料等も常備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人々の性格等を把握してその人に合った言葉掛けや対応を行い、本人が嫌な思いをしないように常に心がけている。	入居者一人ひとりの気持ちを大切にしたり、さりげないケアが心がけられている。また、個人情報については責任ある取り扱いと管理が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人が決定する場面を個々に行っている。「例えば、衣類交換時、食事の内容、外出時の折」等		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの流れをある程度把握されており、自分達が毎日行う事等も自分達から職員に催促される場面もある。又、一人々が自分のペースで生活できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床と共にその日の衣類等、身だしなみを小綺麗に行うように支援すると共に、食事等により汚染した場合は早々に交換をするように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで職員と共に行い、昔から食べなれている食材を利用し、会話をしながら作っている。又季節や誕生日の御膳を作り楽しませている。	入居者は個々の力に応じて食材の買物、野菜の下ごしらえや食器拭きなどを受持ち、職員と一緒に準備や食事、後片付けをされている。近隣の協力もあって旬の野菜をふんだんに使った食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養状態を考え、栄養計算を作成している。水分摂取については、個々で違い昼夜を問わず補給を行ったり、食事、水分のチェックは必ず行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は欠かさず行っている。又、一人々の状態に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の感覚が無い方が殆どだが、夜間帯はオムツを使用している、日中はトレーニングパンツに交換し、時間の間隔を見て排泄誘導を行っている。できるだけ自立への支援を行っている。	排泄チェック表を使用し トイレ誘導による支援に努め、プライドを傷つけないようさりげない支援が実践されており、習慣やパターンに応じた個別の排泄支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の殆どが便秘で、毎日の食事の中に食物繊維や便秘解消となる、乳製品、バナナ等の果物類、歩行練習、散歩等の身体を動かす事も毎日行っている。車椅子の方も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お湯は毎日入れており、10:00からお湯を張り、午後4:00頃には終了される。汚染した場合等は都度実施、現在夜入られる方はおられない。	入居者一人ひとりの習慣や好みを本人や家族から十分に聞き、希望にそっていつでも入浴できるよう個別の入浴支援が行われている。また、衣服の着脱時等にはプライドを損なわないよう配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後共に本人に合わせ居室にて休まれその人のペースで休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師が行い、服薬されている薬の内容等は全職員がすぐ見れるようにファイルに綴り、注意する点等に関しては主治医より指示をもらい、看護申し送り等で職員の周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中での役割分担は自分達で決められており、気分転換を兼ねてのドライブ等、毎日外出を楽しみにされている方等、できる限り実施している。又、外食も楽しみの一つで実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日の外出の中で、行きたい場所にはできる限り行き、車椅子使用されている方も本人の状態に合わせて外出を実施している。一人暮らしだった方も自宅への希望があれば、家族へ連絡し外出を行っている。	散歩、買物、ドライブなど、その日その日の外出先や時間帯を確認し、毎日戸外へ出かけられるよう積極的な取り組みがなされており、日々外出することが当たり前という支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金への理解がある方は本人が購入したい物を職員が同行し購入されたり、家族と話し合った上で実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にされているが、手紙は中々書こうとされず、職員が支援しながら行っている場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光はカーテンで遮り、玄関のソファや浴室の長椅子では時々利用者同士で会話をされたり、休息の場所として利用されている。又、室温調整は各居室の気温計等で調整を行っている。	居間からは窓越しに和風庭園の四季折々の樹木や花々が楽しめる。壁面には共同作品の絵などが貼られ、廊下にはソファが置かれて入居者同士の会話もでき、ゆっくりくつろげるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先の椅子や玄関のソファ、脱衣所の長椅子にて自分達の空間利用をされている。又散歩中でも東で休息を取ったりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り本人が使用していた物を置き、本人が使い慣れた物を持ってきてもらい使用されている。又、机やカーペット等、家族と相談の上持参されている。	使い慣れた家具や馴染みの品が持ち込まれ、自分らしく居心地よく過ごせるよう配慮されている。また、各室にたっぷり収納できる押入れが設けられおり、動きやすい空間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の居室、が分からない方が多く、張り紙をする事で自分一人で行動できるようになられた。又、浴室とトイレを間違っ入られる事もなくなった。		